女中さんに一日の慰安

雇主との融和を圖る

來月一日門司で大會を開く

門司市楠町七丁目西本願寺布敎師菅田了海師は勞資協調の意味から同市内女中慰安大會を來る七月一日午後六時から同寺で開催の筈で當日は多數の女中が會合するであらうといふ右に就き菅田師は語る「女中慰安大會は門司に於ける始めての試みで全く勞資協調の意味からであつて雇主對女中の融和を計るのが第一の目的である近來女中難から女中の勢力が増大するに連れ益々増長して少しでも雇主側が氣に喰はぬ事を云へば直飛出したり又は他を見ては少しでも給金の高い所へ逃出すと云ふ狀況であるから丸で雇主は腫物にでも觸る樣な工合で實際融和が保たれて居ない又女中は一家の生命とも云ふべき臺所を取扱ふ重大責任を持つて居るのに拘らず衞生思想の觀念に乏しいので今回女中慰安大會を開いて及ばず乍ら此等に就て大に衞生思想を普及し且つ雇主と女中との融和を圖りたいと思つて居る女中と云へば大抵中流以上の家庭に使役されて居るから物質上に就ては別に何等の要求をも爲さず今日は精神上の慰安を圖る積で講演と二三の餘興を遣る考へである」

門司市

同市に於ける職業紹介所及警察署の調査に係る現在の勞働者數は仲仕、人夫、職工合して三千六百九名(内女七百十六名)で前月に比し九十六名を増加し財界不振の折柄

却つて活氣を

帶びて居る奇現象を呈して居るこれが重なる原因は全市盛衰消長を左右する内外船舶出入の順調なるに據る、(尤も大正八年の好況時代とは比するの限りに非ず)殊に荒仲仕(沖仲仕)は内鮮人合して千二百餘名の内毎日三四百名宛は船舶貨物の卸積に働き月收平均九十圓内外あるも然れ共撫職(石炭仲仕)は炭價暴落と共に尠からず打撃を蒙り沖仲仕の勞銀に比し半減下の三四十圓と云ふ川上荒仲仕(俗にガン坊)は佐世保市等しく雨露に晒され同市目貫の桟橋附近を迂路ついて風紀、衞生、産業上頗る遺憾に値する點が多々ありと雖爾來誰一人として顧聘する者が無いと云然るに同市の義侠者木村清は之を遺憾に思ひ救濟を企圖し昨年十一月

先づ市有志の

贊同を得て勞働共濟會を組織し其の主義綱領として職業紹介、無料宿泊、物品販賣、簡易食堂の四部を設け同市海岸に古帆船を購入し桟橋附近に繋留し事業を開始し有志者より僅少の補助を受け他は全部私財を投じて之を完成せしめ其の結果成績は頗る好成績を收めつゝある同所は主宰の木村氏全然社會奉仕の目的として營利を欲せず日常必要品を紹介する仲仕等よりは何等手數料も徴せざるのみか物品簡易食堂の如きは常に市價より二割安の廉價を以て指定商人をして販賣せしめつゝあり然も特筆すべきは會員の勿論一家々族に於ける冠婚葬祭の場合は金品を贈り更に之等の爲め市醫師會に諮り醫藥半減を講じ且つ不幸罹病者に對しては會より

半減ノ醫藥料

に更に半減の補助を與へて居る有樣であれば會員の家族は定額の四分の一を以て足るの恩典に浴して居る之等事業に就ては毎月三百圓内外の缺損を生じて居る有樣であるが同氏は強て零捨方を他に需めず之缺損の全部は私財を以て償い居るそうで此の一事は守錢奴は猛省を促がすに十二分の價値がある

小倉市

同市は淺野製鋼所外二三の大工場ありて職工數千三四百あるも財界の恐慌は之等を脅威し中止或は縮少の慘を辿りつゝあつて各工場共に其の整理に着手せんとする風評あるも一時減員は勞資問題てふ風に脅かされ其の異議を避くべく自然淘汰に委するの安全策を採りつゝあつて全體より觀て僅に三割以上は過員の狀態なれば所詮他より入るゝの餘裕なきもの如く尤も工事に着手せんと企圖中の小倉築港は面積頗る尨大にして全市より

職業紹介所不振

利用法が分らぬ

福岡縣の職業紹介所は徐々として振はず公設は僅に二ヶ所私設一ヶ所で門司職業紹介所は昨年度に於て五千九百十二圓にて設置本年度は若松市に於て一萬四千圓計上にて新設の計畫である福岡市の紹介所は太田家經營である斯くの如く失業者續出の折柄職業紹介所の不振は一面社會にて同所利用の理解なき爲めで縣當局にては極力此種事業の擴張に努力してゐる

福岡職業紹介成績

福岡職業紹介所は本年一月創設以來着々好成績を示し殊に財界沈滞の影響を受けた求職者側に取つては最も賢く利用されて居ると云ふが五月の成績に就て同所の發表を見ると

求人數二百七十八口に對して求職者數三百八口あり何れも男子の口が大多數を占め此の中就職した者百三名を出して居る。求人側では商業方面最も多く九十四口あり戸内使用人が之れに次いで六十五口で雑業の五十一口等が先づ多い方であるが商業方面では店員を求むるのが一番多く戸内使用人では僕婢が就中下女の雇入れに不足を告げて居ることを現はし雑業では男女の事務員を求めるのが多い之れに對して求職者側では雑業中の事務員が最も多く百人を越ゆ次ぎには商業の店員戸内使用人の小使番人の部が多數を示し比較的勞力を要する工業や傭業や農林業などの方面には求職者も少い代りに求人の方も稀であると云ふ現象を見せて居る求職者の女子としては矢張り事務員、女中と云ふのが一番多く給仕や勞働などを求むる女も僅かに現はれて居る而して就職した口分では土木建築方面の三十二口と云ふのが最も多く次ぎに店員、雑業、通信運輸、戸内使用人と云ふ順序となり女の部でも戸内使用人(女中)と事務員に多數を示して居る

温い門司の託兒所

佛敎婦人の社會事業

昨年七月會舍建築と同時に益々社會事業に貢獻して居る同市楠町七丁目東本願寺境内に在る佛敎婦人會の事業になる無料託兒所は今來兒童の増加と共に益々其手を擴げて市内に於ける學齡以下の勞働者の子供を無料で收容し世話して居るが同所保母林田藤枝女史は訪問の記者に語る。

『此の託兒所は御承知の如く東本願寺内に設けられてある佛敎婦人會の經營で勞働都市であるにかゝはらず北九州各市には餘り其類を見ないものです現在此所に收容して居る兒童の家族は全部夫婦

共稼ぎ

の者であつて主旨として無料で託兒に應じることとなつて居ます新設當時は一般に無料託兒所と云へば一も二もなく貧民の子供を預ける所だと云ふ誤つた考へを持つて居て高いお金を出して他人の家に預けても此處には決して世話を依頼して來ないと云ふ傾きがありましたが只今ではそんな誤解も自然受けなくなり家庭の方から喜んで兒童の世話を依頼して來るやうになりました只今收容して居る兒童の數は二十八名で三歳が最下で七歳が年長ですが兩親達が毎日朝仕事に出る際伴つて來て夕方伴つて歸るわけです。』